

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 大阪市 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	1年生
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (学年集会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・講話を通して困難を乗り越えることで得られることについて学ぶ。 ・体験を通して車いすの介助方法を知る。 ・日常車いすと競技用車いすから車いすバスケットにつて理解を深める。 
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「2018 国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会」の日本代表で、日本生命所属の北間優衣氏より、講演と実体験指導を行っていただいた。 ・北間氏からは自己紹介、車いすバスケットの紹介、模範プレー、競技用車いすと日常車いすの違いなどについてお話いただいた。 

・全体への講話後、班別に分かれて車いすバスケット体験と日常の車いすの体験、車いすの介助の方法など学習した。

・車いすバスケット体験では、北間氏より競技用車いすの走行練習と、ドリブル練習の指導を受けた後、ミニゲームを行った。



・日常車いす体験では、長居障がい者スポーツセンターから職員の方々にお越しいただき、自走の仕方、介助の仕方を体験した。



6 主な成果

競技用車いすと日常用車いすを両方体験することで、その違いをしっかりと把握できていた。

競技用車いすでは5対5でミニゲームをさせて頂き、大いに盛り上がり興味関心も高まった。又日常車いすでは介助方法だけでなく、実際に街で出会った時の声のかけ方などもお話して頂き、どのような事が自分たちにできるのかも考える機会となった。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>1年全生徒に両方の車いすを体験できるようにするため、近隣の北区社会福祉協会から車いす10台を事前に借りた。 また、当日には長居障がい者スポーツセンターから車いすバスケ用車いすを10台お借りした。 事前の打ち合わせでは、天満中学校の生徒に感じ取って欲しい点など、学校として考えていること、生徒たちに感じて欲しいこと事前にお伝えした。 当日北間氏から、学校の要望を汲み込んだ自身の経験談をお話いただき、難しい事や困難な事から逃げないで挑戦することで自分の道が開けていくことを伝えて頂いた。 子どもたちの心にも深く突き刺さっていると感じた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>2時間だけでは1年生しか体験できなかったため、今後時間を確保して他学年にも体験させたい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	